Japanisch-
Deutsches
Kulturinstitut

公益財団法人日独文化研究所
所　報
Newsletter des Japanisch-Deutschen Kulturinstituts

2018年度
第7号

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地３

移民・難民問題をめぐる意識の差
一ドイツ人の訃報を受けて

日独文化研究所 理事長　秋富克哉

10月のある日、ドイツから一通の私信が届いた。早20年以上前になるが、ミュンヘンに留学した時に、家の前の通りを挟んだところに住まわれていた一家のご主人の訃報。日本式に言えば享年94歳。まさに天寿を全うされての生涯であり、すぐにご夫人にお悔やみの手紙を書き送った。

このご主人は、ミュンヘンを本拠とするシーメンスの関連会社に長年勤務されていたが、知り合った頃は既に定年退職して、近所に住むお嬢さんやお孫さんたちの訪問を受けながら、幸せな老後を送っておられた。

妻子共々ご夫妻やそのご家族に良くしていただいたので、帰国してからもやり取りは続き、ミュンヘンに行った折は、時間を見つけて訪問したりもした。留学中もその後も、ご主人は私に日本のことをあれこれ質問されるのが常だった。政治から社会情勢、特に企業のあり方への関心は強かった。敗戦を経験し、自国の戦後を担った世代として、似た状況から戦後の経済発展を遂げた日本への敬意と共感があったように思う。ただ、何せこちらが企業云々といったことに疎いうえ、ドイツ語力の制約もあり、ご主人を満足させることができたとはとても思えないのが、返す返すも悔やまれる。

訃報からしばらくして、バイエルン州議会選挙で与党のキリスト教社会同盟（CSU）が歴史的な大敗を喫したというニュースが入ってきた。メルケル首相率いるキリスト教民主同盟（CDU）と姉妹政党のため、政権にも大打撃だと言うのだが、その背景には数年来EUを覆っている移民・難民問題があり、極右政党の台頭と相俟って深刻な問題となっているのは周知である。

３年前のこと、ミュンヘンに先のご一家を訪問した折、移民たちを乗せた列車がミュンヘン駅に入るというので、駅の周りはごった返していた。当然ながら、その時は移民・難民のことが話題に上った。種々の点でしばしば引き合いに出されるドイツと日本であり、そうだからこそご主人も日本人である私との会話を望んで下さっていたのだが、ことこの問題にいかに向き合うかについては、国土の地理的条件もあって、彼我に決定的な違いがあることを認めざるを得ない。ご主人との最後の会話も、こちらの知識不足であまりスムーズに進まなかった記憶がある。私自身決して無関心であるわけではないのだが、今このニュースを見聞きするたびに、いささかの苦々しさとともに、ご主人なら何を語られただろうかと思い起こすのである。

【平成29年度の活動報告】

平成29年度には、主に以下の活動を実施いたしました。

- **学術交流活動**：ドイツを中心とする研究者を招聘しての講演会・フォーラム6回。
- **哲学講座**：初夏、中秋、初春ののべ3季開講。
- **年報『文明と哲学』第10号の刊行。**
- **公開シンポジウム「文明」第1回「文明の起点。宇宙進化と生物進化の視野からの提言」の開催。**

各活動の詳細につきましては、当所報4頁の「事務局だより」をご覧ください。

2017年12月３日開催　公開シンポジウム

平成29年度 第27回 公開シンポジウムを開催

平成29年度の公開シンポジウムは、平成29年12月３日（日）、京都大学吉田キャンパス　法経本館　法経第７教室にて、約70名の参加を得て開催されました。今回は、新たに設定された連続テーマ「文明」の１回目として、「文明の起点。宇宙進化と生物進化の視野からの提言」をテーマに、松井孝典氏（東京大学名誉教授・千葉工業大学惑星探査研究センター所長）に「文明は見えない世界がつくる」、湯本貴和氏（京都大学教授・京都大学霊長類研究所所長）に「ヒトは生態系の破壊者か創造者か」と題してご提題いただきました。また、ご提題を承けて、山極壽一氏（京都大学総長・本研究所名誉顧問）にコメントしていただきました。参加者からの質疑もあり、活発な討論が展開されました。

本年度は、平成30年11月25日（日）に、京都教育文化センター 302号室にて、連続テーマ「文明」の２回目として、川勝平太氏（静岡県知事）、髙山佳奈子氏（京都大学大学院法学研究科教授・本研究所監事）にご提題いただく予定です。

◎哲学講座 平成29年度の報告

日独文化研究所の中心的活動のひとつが、市民一般に開かれた「哲学講座」です。昨年度は３季にわたり、のべ18回開講されました。会場は、全講座とも公益財団法人日独文化研究所セミナー室でした。

◎初夏講座　「プラトン哲学の諸相」

全6回；平成29年6月20日～ 7月25日
丸橋裕氏（兵庫県立大学教授）を講師にお招きし、プラトンの主な著作を手がかりとしながら、プラトン哲学のさまざまな側面について論じられる充実した講座が展開されました。

◎中秋講座　「美と芸術の哲学──プラトンから現代アートまで──」

全6回；平成29年10月10日～ 12月5日
吉岡洋氏（京都大学特定教授）を講師にお招きし、プラトン、カント、ヘーゲル、アドルノといった主な哲学者による美学的思索を取り上げたうえで、現代アートをどのように考えるのかというアクチュアルなテーマへと展開する、きわめて広範な講座が展開されました。

◎初春講座「キリスト教的生の可能性─その歴史を通して─」

全6回；平成30年2月1日～ 3月15日
片柳榮一氏（京都大学名誉教授・聖学院大学大学院客員教授）を講師にお招きし、キリスト教思想を手がかりとした「生」の新たな可能性を探求する充実した講座が展開されました。

◎学術交流 平成29年度の報告

学術交流は、哲学・法学・精神医学を中心としつつ、現代的な課題への対処、今後の日独学術研究を担う人材の育成を視野に入れて推進しています。平成29年度に実施された学術交流は以下の通りです。

・GIP（Die Gesellschaft für Interkulturelle Philosophie）フォーラム「間文化的に考える──ドイツ・インド・イタリア・ブラジル・日本の視点から──」平成29年7月19日（水）、於：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川　大ホール。

・フェリクス・ハイデンライヒ氏（ドイツ・シュトゥットガルト大学）**講演会「〈思索する〉と〈建築する〉──構築・脱構築・再構築──」**平成29年10月４日（水）、於：立命館大学衣笠キャンパス　末川記念会館第三会議室。**「意味の指示性の扱い方──ブルーメンベルクと道元──」**平成29年10月５日（木）、於：京都産業大学　第２研究棟第１会議室。

・ニルス・ヴァイトマン氏（ドイツ・テュービンゲン大学学術フォーラム所長）**講演会「マルティン・ハイデッガーとハインリヒ・ロムバッハにおける意味と存在（有）との関係」**平成30年２月27日（火）、於：京都大学吉田キャンパス大学院人間・環境学研究科棟433室。
「根本諸経験の哲学としての間文化哲学」平成30年２月28日（水）、於：立命館大学衣笠キャンパス　末川記念会館第三会議室。

・ティルマン＝レプゲン氏（ドイツ・ハンブルク大学）**講演会「BGB280条１項２段における過失推定の射程」**平成30年３月11日（日）、於：京都大学吉田キャンパス　法経本館１階　法経第11教室。

なお、研究交流助成事業として、レプゲン氏講演会に参加した若手研究者１名に、参加旅費を助成しています。

ドイツだより（7）
Der Brief von Deutschland

非忙亦非閑

評議員　安部　浩

四月十一日にミュンヘンに来て四箇月半が過ぎた。後半月で帰国。今般の滞在の目的は、ミュンヘン大学哲学科にて夏学期の間、「近代日本哲学入門」と題して京都学派の哲学、就中、和辻倫理学を講ずることにあった。

生来懶惰であり、教壇に立つのが苦手な私は、毎回の講義を直前になって慌てて準備し、その場を辛うじて乗りきる綱渡りを例年繰り返している。しかしながら日本語は疎か、日本（更には東洋）の諸事情に通じていることを些かも期待することが許されぬ哲学専攻の学生諸氏を相手に、国書・漢籍・仏典にも関説せざるをえぬ相当込み入った話柄を一学期間にも亘って、しかも不如意なドイツ語で講ずる初の機会である以上、今般の客員講義ばかりは、流石に相応の事前準備を怠る訳にはいかない。ところが豈図らんや、離日の直前まで諸事に忙殺され続け、徒手空拳で来ることになるとは。かくて私は性懲りも無く、当地でも毎週必死に講義を準備し続ける羽目になった。

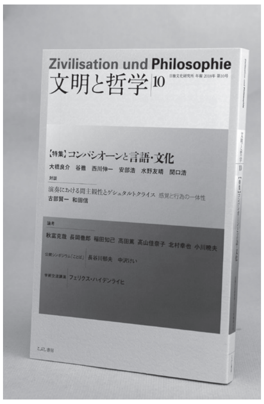
四月十七日。初回の講義は受講者が教室を埋め尽くし、度肝を抜かれた。だがその数は回を重ねるにつれて漸減した。学生諸氏の振る舞いは何処も同じであることに感心した。当初身構えていたよりも聴講者各位は大人しかったとはいえ、それでもいかにもドイツの大学らしいことに、毎回の終業時には質問が陸続と寄せられた。挙句の果てには面談を申し込まれた。ミュンヘン大学には自室などない為、本館前の広場で問答をした。

六月。ジーゲンで二つの発表を行い、ミュンヘンでは会議を主催した。その前後から、講義のついでに買い物も済ませるべく、週に一度外出する以外は終日蟄居、原稿執筆に明け暮れるようになった。恰も独房での懲役の如き生活であった。

七月十日。遂に最終回を恙無く迎えるに至った。抹茶を一服。その時の安堵感と達成感は忘れられない。だが自転車操業は尚も続く。その翌週にチュービンゲンでは講演と演習、ハイデルベルクでは講演の機会を頂き、八月中旬には北京にて開かれた会議で発表を行った。

私はこの間、隠逸の閑居（スコレー）を享受した学者（スカラー）であったのか。それとも国産思想の輸出業務（ビジネス）に勤しむ、働き詰めの商社駐在員（ビジネスマン）であったのか。否、寧ろ両者何れでもない（ニュートラル）者としての生き方の端緒こそを私は異国での独居を通して摑みえたように思う。はてさて嚮後、新帰朝者は「中隠の士」（白居易）たりうるや否や。

講演中の筆者　ハイデルベルク大学旧講堂(Alte Aula)にて



年報『文明と哲学』第10号刊行の報告

年報『文明と哲学』の第10号を平成30年3月にこぶし書房を通じて刊行いたしました。今号は、特集テーマとして「コンパシオーンと言語・文化」を設定いたしました。本研究所の役員、研究員による論考、対談、公開シンポジウムの成果、学術交流事業の成果（一部のみ）を収録しております。

【特集】コンパシオーンと言語・文化　大橋良介、谷徹、西川伸一、安部浩、水野友晴、関口浩

対談　古部賢一　和田信

論考　秋富克哉、長岡徹郎、稲田知己、高田篤、髙山佳奈子、北村幸也、小川暁夫

公開シンポジウム「ことば」長谷川郁夫、中沢けい

学術交流講演

安部浩評議員がジーボルト賞を受賞しました

本研究所の安部浩評議員（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）が、2017年6月に、フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞を受賞しました。ジーボルト賞は、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団が選定し、日独両国の文化と社会の相互理解促進に貢献のあった日本人研究者に対して、ドイツ連邦共和国大統領より直接授与されます。ドイツにおける、日本人研究者を対象とする最も権威のある賞とされています。

授賞式にて

Die Benachrichtigung von einem Sekretariat 事務局だより

平成２９年度の報告

◎事業報告

1. 第27回公開シンポジウムの開催（連続テーマ「文明」の１回目）
日時：平成29年12月３日（日）　**場所**：京都大学吉田キャンパス　法経本館　法経第７教室　**テーマ**：文明の起点。宇宙進化と生物進化の視野からの提言　**参加者**：70名
講演：**松井孝典氏**（東京大学名誉教授・千葉工業大学惑星探査研究センター所長）「文明は見えない世界がつくる」。**湯本貴和氏**（京都大学教授・京都大学霊長類研究所所長）「ヒトは生態系の破壊者か創造者か」。**コメンテータ**：**山極壽一氏**（京都大学総長・本研究所名誉顧問）。参加者からの質疑等もあり、活発な討論が展開されました。

2.『文明と哲学』第10号刊行
平成30年３月、こぶし書房から、平成29年度年報『文明と哲学』第10号を刊行しました。

3. 哲学講座
◉**初夏講座**　**日時**：平成29年６月20日～７月25日（全６回）　**場所**：公益財団法人日独文化研究所セミナー室　**受講者**：23名　**テーマ**：「プラトン哲学の諸相」　**講師**：丸橋裕氏（兵庫県立大学教授）
◉**中秋講座**　**日時**：平成29年10月10日～12月５日（全６回）　**場所**：公益財団法人日独文化研究所セミナー室　**受講者**：23名　**テーマ**：「美と芸術の哲学──プラトンから現代アートまで──」　**講師**：吉岡洋氏（京都大学特定教授）
◉**初春講座**　**日時**：平成30年２月１日～３月15日（全６回）　**場所**：公益財団法人日独文化研究所セミナー室　**受講者**：17名　**テーマ**：「キリスト教的生の可能性──その歴史を通して──」　**講師**：片柳榮一氏（京都大学名誉教授・聖学院大学大学院客員教授）

4.『所報』の発行
平成29年12月、『所報』第６号を発行し、賛助会員をはじめ事業参加者などに配布しました。

5. 学術交流
◉GIPフォーラム　平成29年７月19日
◉フェリクス・ハイデンライヒ氏講演会　平成29年10月４日・５日
◉ニルス・ヴァイトマン氏講演会　平成30年２月27日・28日
◉ティルマン＝レプゲン氏講演会　平成30年３月11日

公益財団法人日独文化研究所評議員・役員一覧（平成30年３月31日現在）
1. 評議員　安部 浩氏　阿部光幸氏　木村 敏氏　初宿正典氏　西川伸一氏　松丸壽雄氏　森 哲郎氏
2. 理　事　秋富克哉氏（理事長）　大橋良介氏（所長）　高田 篤氏（常務理事）　小川暁夫氏　谷 徹氏　和田 信氏
3. 監　事　髙山佳奈子氏　津野紀代志氏

理事会・評議員会等の開催
◉平成29年４月11日、書面によるみなし決議にて第18回理事会を開催し、次の議案について審議可決しました。
議案１　千玄室氏を名誉顧問に選任する件
議案２　堀場厚氏を名誉顧問に選任する件
議案３　ヘルムート・シュヴァルツ氏を名誉顧問に選任する件
議案４　臨時評議員会を招集する件
◉平成29年４月21日、書面によるみなし決議にて第８回評議員会を開催し、次の議案について審議可決しました。
議案１　千玄室氏を名誉顧問に選任する件
議案２　堀場厚氏を名誉顧問に選任する件
議案３　ヘルムート・シュヴァルツ氏を名誉顧問に選任する件
◉平成29年６月５日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午後２時より第19回理事会を開催し、次の議案について審議しました。
議案１　平成28年度事業報告及び決算書類を承認する件
議案２　平成29年度事業実施について相談する件
議案３　特定資産「学術文化振興基金」の全額取崩しを承認する件
議案４　基本財産の一部取崩しを承認する件
議案５　平成29年度の研究員の採用の件
議案６　ハノーヴァー哲学研究所との交流協定延長の確認の件
議案７　いざなみ監査法人との外部任意監査の契約を更新する件
議案８　定時評議員会を招集する件
審議の結果、すべての議案が可決されました。なお、議案3, 4については、特別決議により可決されています。
　また、次の事項について報告がなされました。
報告事項１　理事長及び所長の職務の執行状況についての報告
報告事項２　資金移動についての報告
報告事項３　名誉顧問の打診についての報告
報告事項４　賛助会員の推移についての報告
◉平成29年６月21日、書面によるみなし決議にて第９回評議員会を開催し、次の議案について審議可決しました。
議案１　平成28年度事業報告、貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）及び財産目録を承認する件
議案２　特定資産「学術文化振興基金」の全額取崩しを承認する件
議案３　基本財産の一部取崩しを承認する件
議案４　平成28年９月30日に評議員を辞任した三澤廣人氏の補欠として安部浩氏を評議員に選任すること
なお、議案2, 3については、特別決議により可決されています。
◉平成29年10月12日、書面によるみなし決議にて第20回理事会を開催し、次の議案について審議可決しました。
議案１　松丸壽雄評議員の研究機関として公益財団法人日独文化研究所を登録する作業を府省共通研究開発管理システム（e-Rad）上で行うことを承認決定する件
◉平成30年３月２日、公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて、午前11時30分より第21回理事会が開催され、次の議案について審議しました。
議案１　平成29年度補正事業計画案及び補正予算案等を承認決定する件
議案２　平成30年度事業計画案及び予算案等を承認決定する件
議案３　平成30年度に基本財産最大1,000万円を取崩して、公益目的事業及び法人管理のための資金に充当することを承認決定する件。ただし、評議員会の承認を得ることを条件とする。
議案４　公開シンポジウム「文明」成果報告集の発行（５年に１回、刊行費用100万円）の支出に備えるため、平成33年度までの４年間、毎年25万円を積立し、平成34年度に取崩す特定費用準備資金を設定する件。
議案５　規程の承認決定を行う件
　〈新規に策定する規程〉
　・公益財団法人日独文化研究所　年報内規
議案６　平成30年度における研究員の採用計画を協議する件
議案７　事務局長との契約を更新する件
議案８　事務局員との契約を更新する件
議案９　ソーシャルネットワーキングサービスの利用について協議する件
　審議の結果、議案１～４, ６～７, ９は可決、議案5, 8は一部修正のうえ可決されました。なお、議案３については、特別決議により可決されています。
　また、次の事項について報告がなされました。
報告事項１　理事長及び所長の職務の執行状況についての報告
報告事項２　特定資産「学術文化振興基金」全額取崩し、及び基本財産の一部取崩しの報告
報告事項３　次年度公開シンポジウム提題者及び日程の相談
報告事項４　内閣府立ち入り検査（平成29年11月21日）の報告
報告事項５　公益通報１件に対する対処の報告
報告事項６　賛助会員の入退会状況の報告
報告事項７　今後の日独文化研究所のあり方についての若干の報告

◎財務報告

（平成30年３月31日現在）

	資産				正味財産
	基本財産	特定資産	その他固定資産	流動資産	
（百万円）	166.3	0.7	15.8	5.6	188.2

	収入	
	賛助会費	その他
（万円）	41.8	67.6

	支出	
	事業費	管理費
（万円）	759.7	193.6

なお、平成29年度には正味財産の減少が843.8万円ありました。公益目的事業にあっては、663万円の一般正味財産減少となっており、「収支相償の原則」を満たす結果となっています。公益事業比率は80.2％となっています。

平成30年度の計画

◎事業計画

1. 第28回公開シンポジウムの開催（連続テーマ「文明」の２回目）
日時：平成30年11月25日　**場所**：京都教育文化センター　302号室　**テーマ**：文明の生成パラダイム。〈海〉と〈法〉からの視点　**講演**：川勝平太氏（静岡県知事）　髙山佳奈子氏（京都大学大学院法学研究科教授・本研究所監事）

2. 年報の刊行『文明と哲学』第11号を、平成31年３月に刊行予定です。

3. 哲学講座の開催
◎**初夏講座**「身体の哲学と西洋哲学史」
期間：平成30年６月20日～７月25日（全６回）　**講師**：加國尚志氏（立命館大学教授）
◎**中秋講座**「ポーランド的感性と現代美術の行方」
期間：平成30年10月９日～12月４日（全６回）　**講師**：加須屋明子氏（京都市立芸術大学教授）
◎**初春講座**「テーマ＝未定」
期間：未定　**講師**：未定

4. 学術交流
ハノーヴァー哲学研究所との連携を行うほか、ドイツから学者を招待し、講演会を開催します。また、法学系においては国内の学会と連携して、ドイツからの学者による講演会に参加する国内の若手研究者を支援します。

〈編集後記〉公益財団法人日独文化研究所は、哲学を基軸として、日本とドイツの学術文化交流を遂行することを使命としています。グローバル化が進行する中、本研究所がその持ち前の人脈と機動力とを駆使して、相手と顔の見える形で学術文化交流を続けてゆくことの意義が増してきました。今後とも、より一層のご理解とご協力をみなさまから頂戴して、事業を遂行して参ります。

公益財団法人日独文化研究所 所報 第７号　平成30（2018）年11月1日発行
発　行　公益財団法人 日独文化研究所
〒606-8305　京都市左京区吉田河原町19番地3
Tel. 075-771-5200　Fax. 075-771-5242
http://www.nichidokubunka.or.jp　zaidan@nichidokubunka.or.jp
編集協力　文屋秋栄株式会社